

eラーニングによる教員免許状更新講習の実施報告

森祥寛*1・佐藤正英*1

Email: mori4416@staff.kanazawa-u.ac.jp

*1: 金沢大学総合メディア基盤センター

◎Key Words eラーニング、教員免許状更新講習、KAGAC

1. はじめに

中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)^①」において、「恒常的に変化する教員として必要な資質・能力の確実な保証」が謳われ、それを基に教員免許更新制の導入に関する提言がなされて後、改正教育職員免許法が平成19年6月に成立し、教育職員免許法施行規則の一部が改正され、平成21年4月から教員免許状の更新制導入が決まった。元よりこの制度は5年程度で見直しをすることとなっており、平成26年10月には「免許状更新講習における選択必修領域の導入について(通知)^②」が出され、平成28年度から講習科目の組立てが変更になることも決まっている。

成立から実施までには色々な議論があった免許状更新制度であるが、実施開始から7年目を迎え、10年毎の講習としてそろそろ全員1回は受講するという状況になりつつある。ここを一つの区切りとして、本稿では、金沢大学、愛知教育大学、東京学芸大学、千歳科学技術大学の4大学が中心になって立ち上げた、教員免許状更新講習をeラーニングで実施する組織「KAGAC eラーニング教員免許状更新講習推進機構^③」(以下、KAGACと言う。)についてその取組と成果を報告する。

2. KAGACによる教員免許状更新講習概要

2.1 KAGACの組織

KAGACは、eラーニングによる教員免許状更新講習を実施するために金沢大学(K)、愛知教育大学(A)、東京学芸大学(GA)、千歳科学技術大学(C)の4大学が連携し作られた組織である。また協力組織として、2つのNPO法人^{④⑤}も加わっている。KAGACの名称は、連携4大学の頭文字等をとってつけられた。

2.2 講習スケジュールと受講の流れ

KAGACにおける講習スケジュールは

- 1月半ば: 文部科学省への開講申請、
受講申込みの為のシステムの準備を開始
- 2月半ば: 文科相より開講許諾
- 3月半ば: 受講申込み開始、
- 4月末: 講習を担当する教員より修了試験問題提出
- 5月末: 講習用教材の修正等終了
- 6月始め: 受講申込みバッチ
- 6月始め: 講習開始
- 8月末: 講習終了、修了試験実施
- 9月半ば: 修了試験結果のとりまとめ、

順次、各大学にて試験結果を承認

10月半ば: 修了・履修証明書の送付

年度毎に日程は多少ずれるが、上記のスケジュールに沿って、講習を年1度実施している。修了試験は1日のみ、全国8カ所で受験できる。

受講は、インターネット上に設置した「受講用システム」を使用して、次の手順で行えるようにしている。

- ① 仮申込み(メールアドレスをIDとして使用)
- ② 受講者用ページへのログイン
- ③ 受講したい講習の内容確認と受講申請
(第1回のみ全講習についてその内容閲覧可)
- ④ ★講習料支払い
- ⑤ ★申請書類を郵送
- ⑥ 申請完了後、「受講者用ページ」に講習へのリンク設置(ただし、アクセスは講習開始後)
- ⑦ 講習受講
 - 講習1回毎に確認テスト実施、全問正解で合格
 - 模擬試験を受験
- ⑧ ★修了試験を受験

上記の内「★」のついたものは、受講用システムを使用しない。

2.3 講習一覧と受講者数

KAGACでは、必修・選択領域合わせて毎年30科目弱を用意している。高等教育に関わる内容について、eラーニングでこれだけの科目がそろえられるのは、4大学連携の効果であろう。

本講習は、平成21年度から開始され、平成27年で7年目を向かえる。平成21年度のみ夏・秋の2回講習を実施したが、平成22年度以降は、夏に1回講習を開くのみとしている。講習の受講者数は表1の通りである。平成22年度は受講者数が減っているが、これは、当時の社会的背景によるものである。

表1 受講者数の推移

講習年度	受講者数
平成21年度	2,464名(夏期1,935名、秋期529名)
平成22年度	1,498名
平成23年度	2,411名
平成24年度	2,357名
平成25年度	2,313名
平成26年度	2,302名
平成27年度	2,289名(6月10日現在未確定も含む)

3. eラーニング講習としての取組

3.1 講習システム

講習システムは、ポータルとしての「受講生ページ」と学習用教材等を載せた「学習管理システム（Moodleを使用）」、「受講者質問用掲示板」からなっている。

システムの基本設計として、パソコン等の操作に慣れていない学習者（受講者は基本的に34歳、44歳、54歳の教員である）でも障害無く使用できるようにシンプルな構成にした。そのためMoodleも学習に必要なリンク以外は全て画面から削除している。

3.2 講習用教材のデザインと質問対応

図1が実際の講習画面である。講習自体は、所謂VOD教材に近く、音声による講師の説明に合わせて、スライドが動いていく。これをFlashで作成している。eラーニングに不慣れな受講生も多いことから、教材の操作は「進む」「戻る」「一時停止/再生」の3つのボタンのみで行うようにした。この教材画面をA4サイズの用紙に6ページ分配置した授業ノートをPDFファイルで用意し、メモを取りながら学習できるようにしている。学習の完了を確認するために、単元毎（必修13、選択7）に小テストを用意している。これに合格することで学習完了としている。

講師への質問は、掲示板を使用する。講習期間中は、メンターと呼ぶ学習補助者をつけ、掲示板に質問があった時に、そのことを講師に連絡し、掲示板に対応中の書き込みをする。これによって、受講者の質問への対応漏れがないようにしている。ちなみに、質問のうちシステム利用方法等の講習の学習内容とは直接関わらない部分については、メンターが直接回答してしまう。

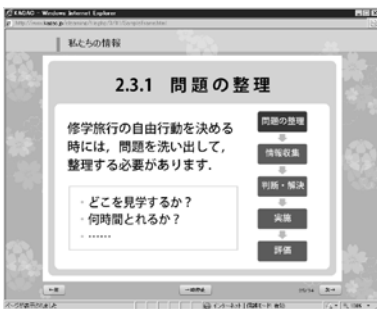


図1 eラーニング教材画面

3.3 講習継続のための取組

eラーニング講習実施の際の注意点の1つが、学習継続性であろう。教員免許状更新講習でもこの点は問題であった。学生の受講と違い、未修了が失職に繋がる可能性があったため、大部分は継続的に受講していた。しかし、約2ヶ月という受講期間では、学習活動が停滞する受講生もいるため、受講者全員に対して、一斉配信メールを定期的に送付することとした。配信したメールは2種類で、1つは、講習を実施する事務局からの近況報告と講習を促す内容のもの、もう一つはシステムからの自動配信メールで、現在の受講状況を毎週送るものである。

事務局からのメールは、受講者に対してきめ細や

かな対応をしていることを印象づけることもでき、事後アンケート等での評価も高かった。

先のメンターによる質問対応と合わせて、講習期間中に学習を完了しないものは毎年1%未満に収まっている。

3.4 修了試験

修了試験は、本講習の制度上実施が求められているもので、本人確認や不正防止の困難さの観点から、eラーニングではなく、試験会場に集まって実施している。試験自体は、マークシートによる選択式問題で6割以上の得点で合格としている。

試験結果を見ると、不合格者は全体の1%未満（講習未完了者は除く）である。

4. まとめ

教員免許状更新講習をeラーニングで実施して7年目となった。KAGACによる講習は、毎年2,000名以上を対象として行われており、データの的には、昨今のMOOCと同等以上の結果を残している。

教員免許状更新講習自体は、今後も継続していくように思われること、必修科目等を担当できる大学教員に限られていること等を勘案すると、eラーニングを活用して予め講習を作成しておき、それを実施できる体制を作ること、教員の負担軽減という意味からも非常に意味がある（受講者がいつでも学習できるという利点も当然含んでいる）。

KAGACは、試験会場の関係から北海道、東京都、愛知県、石川県、大阪府の教員が中心に受講しているが、同様の試みは、他の地域でも実施可能である。ICTの教育への活用という側面からも、KAGACのような講習の取組を広げていければ良いのではないだろうか。

参考文献

- (1) 中央教育審議会（2006）「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910.htm
- (2) 「免許状更新講習における選択必修領域の導入について（通知）」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/008/1352508.htm
- (3) 教員免許更新制 講習開設情報
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/004/index.htm
- (4) KAGAC eラーニング教員免許状更新講習推進機構 ホームページ <http://www.kagac.jp/index.html>
- (5) NPO法人知的人材ネットワーク・あいんしゅたいん <http://jein.jp/>
- (6) 特定非営利活動法人国際社会貢献センター（ABIC）
<http://www.abic.or.jp/>